



林野庁
東北森林管理局
津軽白神森林生態系
保全センター
平成30年5月25日
No.143

平成30年度 自然再生活動について

平成30年度の自然再生活動の開催予定をお知らせします。
募集受付は、イベント実施日の概ね1ヶ月前から開始する予定です。



苗木採取の様子



仮植作業の様子

○第1回自然再生活動 ～水を育む ブナ林再生教室～

実施日：平成30年7月21日（土）

実施場所：青森県中津軽郡西目屋村 鬼川辺国有林 外

募集人員：20名（親子での参加を優先し、応募多数の場合は抽選）

参加費：200円（傷害保険料外・バス代は無料です）

イベント内容：ブナ林再生活動としての広葉樹苗木の採取等と森林散策。

道路状況・天候等によりイベント内容を変更する場合があります。

※募集期間等の詳細につきましては、次月号の「白神の絆」にてお知らせいたします。

○第2回自然再生活動【予定】

実施日：平成30年9月15日（土）

実施場所：青森県中津軽郡西目屋村 鬼川辺国有林 外

募集人員：親子での参加を優先し、応募多数の場合は抽選により20名。

参加費：200円（傷害保険料外・バス代は無料です）

イベント内容：ブナ林再生活動としての広葉樹苗木の採取等と森林散策。

道路状況・天候等によりイベント内容を変更する場合があります。

※詳細につきましては、確定次第「白神の絆」でお知らせいたします。

小型囲いわな稼働しました

近年目撃される機会が多くなってきたニホンジカの学術研究捕獲を目的とし、平成 28 年度に設置・稼働させた小型囲いわなですが、今年度で 3 年目の稼働となります。4 月 25 日（水）に報道陣が見守る中、小型囲いわなの肝となるアニマルセンサーのスイッチを入れました。

このセンサーは、シカクラスの大型哺乳類が囲いに入った時に熱と動きを感知する設定としています。そのため、中型クラスのタヌキなど、わな内を出入りし

ても反応はしません。シカがわなに入るとセンサーが感知し通信機能を持ったカメラと連動して、わなの扉が閉まった時点で撮影を行いその状況を執務室のパソコンにメールで知らせてくれる ICT（情報通信技術）を用いた仕様となっていて、毎日わなの確認する手間を省くことができます。今までは毎日、わなの扉が閉まっているか、捕獲されているかなどの確認作業が必須だったのと仕掛けの構造上、誤作動が多かったのですが、アニマルセンサーを用いたことで設定範囲以外の対象には反応しないおかげで誤作動率は格段に減少し（まれにある誤作動はご愛敬ということ）、センサーのスイッチさえ入れておけば、ほぼ確実にお知らせしてくれます（念のため、週 1 回の確認は実施しています）。



報道陣を前に説明する上杉所長（右側）



わなセンサーの調整作業中



小型囲いわな全景

また、わな自体は昨年度と同じですが、わな周囲の状態をあえて刈り払わない様になりました。自然な景観に持つて行くのと移動ルートにある程度限定するためです。今後夏に向けて、草本類が繁茂することである程度の藪が出来上がれば、必然的に歩きやすい部分が限定され、わなに入る確率が上がるのではと考えます。秋になれば餌となる草も減り始めるので、わなへ誘導するための撒き餌（干草・ヘイキューブ）を実施しようかと目論んでいるところです。

現在白神山地周辺エリアのシカの生息密度は非常に低い状況で、わなによる捕獲の可能性も低いと思われませんが、首尾良く捕獲できれば貴重なサンプルを採取することができます。(前歯：断面から年齢を特定 胃：内容物から食性が分かる 腎臓：脂肪の付き方で栄養状態が確認できる)

わなの稼働期間は稼働日より5月末日でいったん停止させますが、餌が減り始める秋期より再度稼働させる予定です。「今年度こそは、何とか1頭」の思いを胸に、根気強く取り組んでいきます。



センサーが感知し、写真のカメラが撮影・メールで状況を知らせる



センサーが感知し実際に受信した写真



わな付近で撮影された雄のニホンジカ
(平成29年10月31日撮影)

小囲いわな以外にも中大型ほ乳類の生息状況モニタリングの一環として、センサーカメラの設置・データ回収を実施する予定ですが、毎年ニホンジカも撮影されています。シカが撮影された場合は、白神山地世界遺産地域連絡会議の構成機関である環境省や、その他の関係機関と情報共有すると共に、こちらの状況も今後誌面を通じて本誌を読んで下さる皆様に定期的にお伝えしていければと考えています。(三浦)

園児が緑化活動を体験

津軽森林管理署と当センターでは、鱒ヶ沢こども園の年長園児14人を対象に、5月10日(木)、花や木材を通じて自然に親しむ体験学習を実施しました。

この活動は鱒ヶ沢町の緑化活動「花いっぱい運動」の一環となるもので、間伐材を利用したプランターに花の苗を植える体験をすることで、未就学のお子さん達が自然環境に興味を持つきっかけになればと活動を始め、今年で9年目となります。

当センターの上杉所長が「少しでも長く花が見られるようにお世話してください」と挨拶した後、園児たちは丁寧に花を植え付け、水をかけていました。みんな花を植えるのが楽しかった様子で、園児の一人は毎日水やりをすると話していました。園児達が元気に成長し、動植物が暮らす自然を大切に感じてくれるようお願いしています。（吉川）



園児達の作業の様子

緑の募金街頭活動を行いました



鯨ヶ沢町長からの挨拶

5月11日（金）、「緑の募金」街頭活動が鯨ヶ沢町「海の駅わんど」と町内スーパーマーケット前の4箇所で行われました。この街頭募金活動は、青森県鯨ヶ沢町緑化推進委員会の主催で毎年開催しており、当日は舞戸小緑の少年団、さいかい緑の少年団などが「緑の募金にご協力をお願いしま〜す。」と大きな声で呼び掛け、買い物に訪れた多くの方々が募金に応じていました。

当センターからは、同委員に委嘱されている所長が参加し、少年団と共に募金をお願いをしました。皆様から寄せられた「緑の募金」は、森林づくりや緑化活動、子供達の森林環境教育等の支援に活かされています。今後も「緑の募金」が、森林を守り育てる国民運動として発展していくようお願いいたします。（吉川）



募金活動中の様子

